

第2章

大田区の男女共同参画を取り巻く

現状と課題

1

大田区の概要

(1) 総人口の推移

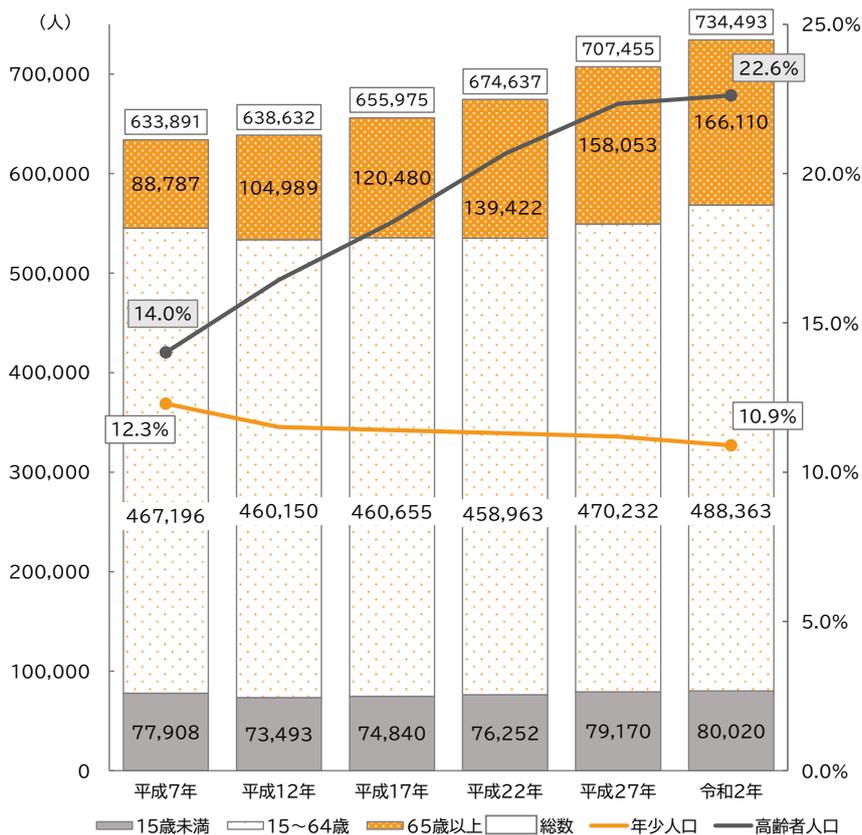
少子高齢化に対する多角的な取組が必要です

区の総人口は平成7(1995)年以降増加し、平成27(2015)年には、70万人を上回りました。これ以降穏やかな増加に転じ、令和2(2020)年では、734,493人となりました。しかし、令和3(2021)年の人口は733,672人となり、10年ぶりに前年数を下回りました。

年齢3区分別人口をみると、平成7(1995)年時点では年少人口(15歳未満)の比率が12.3%、高齢者人口(65歳以上)の比率が14.0%となっています。

令和2(2020)年(1月1日現在)においては、年少人口の比率が10.9%、高齢者人口の比率が22.6%となっており、ますます少子高齢化が進んでいる状況です。

総人口の推移



出典：住民基本台帳(各年1月1日現在)

年齢(3区分)別人口の比較

	大田区	23区	東京都	全国
年少人口(15歳未満)比率	10.9%	11.3%	11.6%	12.2%
生産年齢人口(15~64歳)比率	66.5%	67.3%	65.8%	59.9%
高齢者人口(65歳以上)比率	22.6%	21.4%	22.6%	27.9%

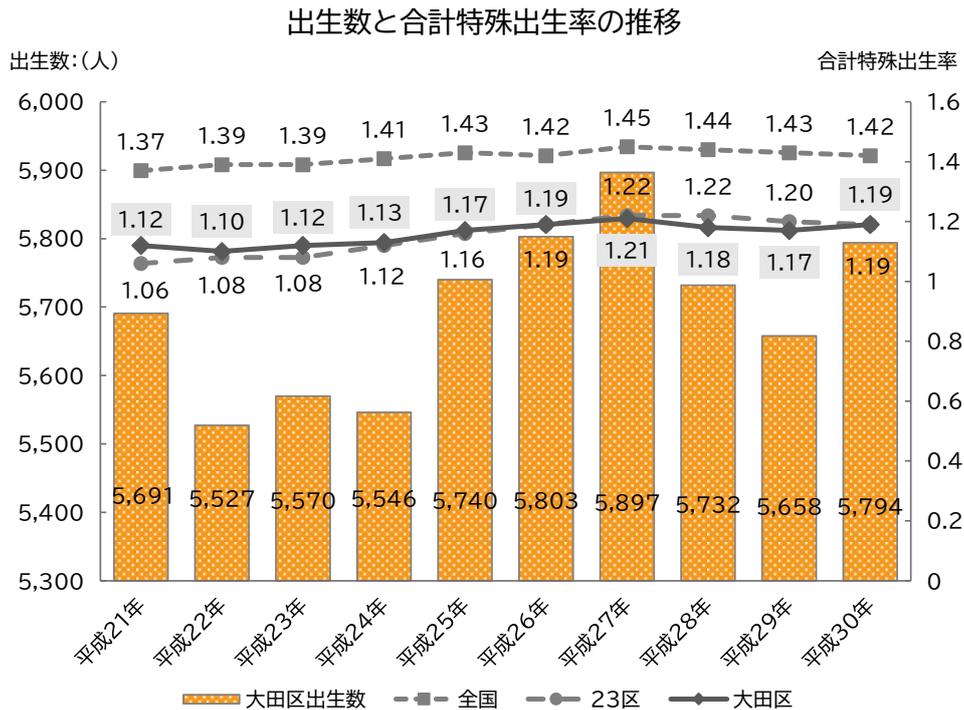
出典：住民基本台帳(令和2年1月1日現在)

(2) 出生数と合計特殊出生率

平成 27 年度以降、ほぼ横ばいの状態が続いています

区における出生数は、平成27(2015)年以降減少していましたが、平成30(2018)年には5,794人と過去2年よりも増加をしています。

合計特殊出生率^{※4}については、平成27(2015)年以降ほぼ横ばいの状態であり、23区とは同水準であるものの、全国と比較すると大きく下回っています。



出典：人口動態統計

平成 30(2018)年の合計特殊出生率

東京都	23区	市部	郡部	島部	全国
1.20	1.19	1.27	1.32	1.63	1.42

大田区	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区
1.19	1.20	1.42	1.39	1.03	1.24	1.23	1.24
江東区	品川区	目黒区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区
1.32	1.21	1.06	1.08	1.08	1.00	1.08	0.99
北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区	江戸川区	
1.18	1.19	1.16	1.16	1.31	1.34	1.39	

出典：人口動態統計

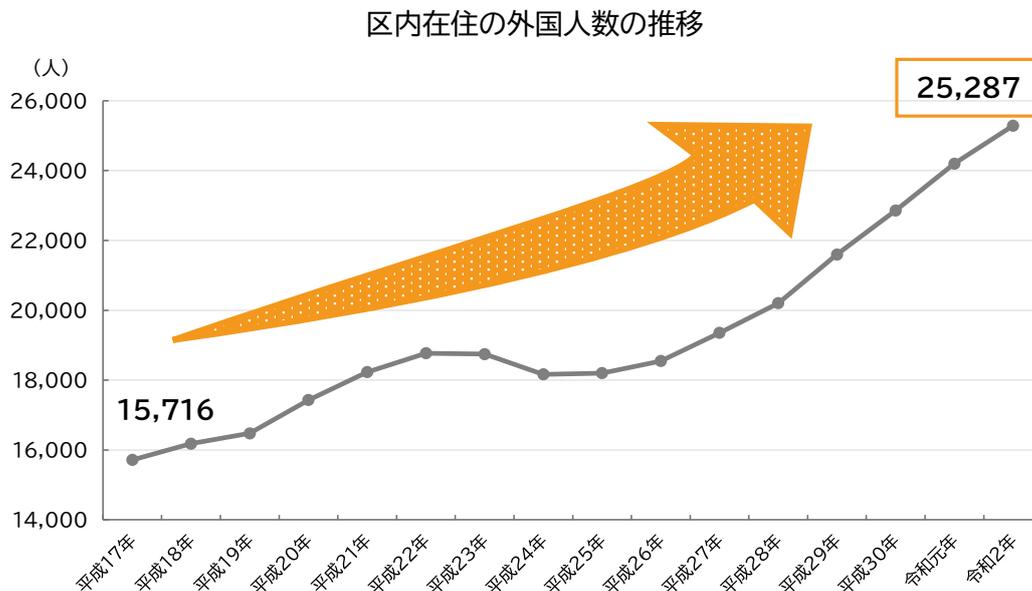
※4 合計特殊出生率

15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率と同じ確率で出産するとした場合に、一生の間に産むと想定される子どもの数に相当します。

(3) 区内在住の外国人数

外国人区民は、24,000 人を超えています

区内在住の外国人数は、平成24(2012)年以降、年々増加し、令和2(2020)年(1月1日現在)では、25,287 人となり、平成17(2005)年と比べて約1万人以上の増加がみられました。その後、令和2年中に減少し、令和3(2021)年(1月1日現在)においては、24,122 人となっています。



出典：住民基本台帳(各年1月1日現在)

※平成17年から平成24年は、外国人登録法により記録されたもの

国際都市おおた

羽田空港を抱える大田区には、様々な国・地域から多くの外国人が訪れています。今後も社会経済活動の更なるグローバル化の進展に伴い、外国人区民および外国人来訪者の数は増加傾向が続くと予想されています。

大田区は、日本のゲートウェイとして地域の力を結集し、新たな時代を切り拓いて、世界にはばたく「国際都市おおた」を宣言しています。「国際都市おおた」の実現のためには、外国人区民と日本人区民が、地域をつくる住民として共に生きていくことが重要であると考え、多文化共生社会の推進のために様々な取組を行っています。

(4) 女性の職業生活の状況

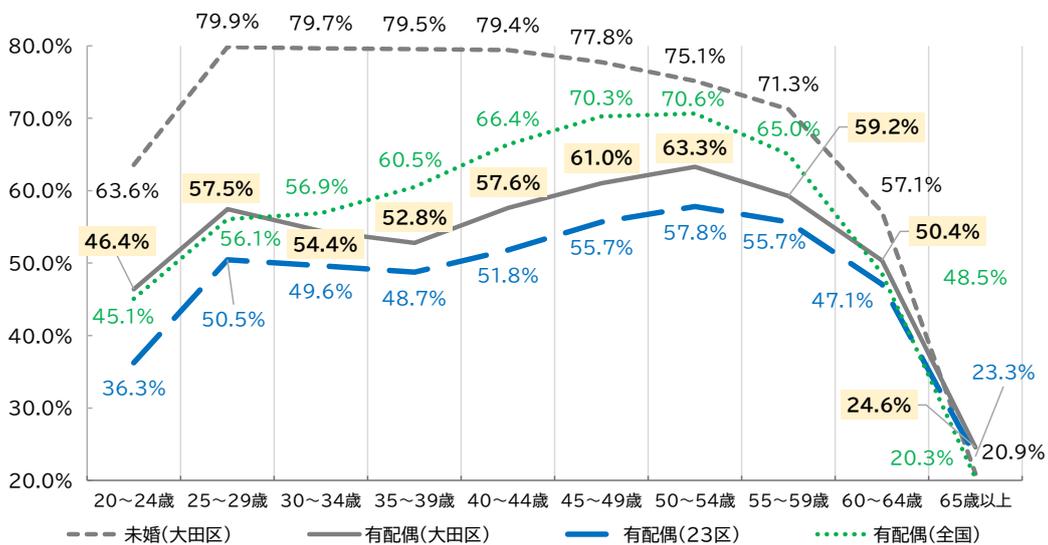
配偶者の有無に関係なく、自分の意思で働ける環境が必要です

女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口〔就業者＋完全失業者〕の割合）は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブ※5を描くとされています。

区においても、有配偶女性の労働力率は20～40歳代にかけて未婚女性よりも大幅に低いため、出産や育児を機に仕事を辞める状況がうかがえます。

有配偶女性の年齢階級別労働力率を大田区、23区、全国で比較してみると、20～24歳、25～29歳にて、23区、全国よりも上回っている状況です。

配偶関係・年齢階級別女性の労働力率の推移



出典：国勢調査

※5 M字カーブ

日本の女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化した場合、30歳代が谷となり、20歳代後半と40歳代後半が山となるアルファベットのMのような形になることです。

これは、結婚や出産を機に仕事を辞める女性が多く、子育てが一段落すると再び仕事に復帰するという特徴が表れています。これまでは、女性が結婚や出産をし、家事や育児をしながら働き続ける環境が整っておらず、就労を一時断念せざるを得ない状況でした。

現在は、女性の社会進出や活躍に向けた取組や支援が充実し、M字カーブが解消傾向にあります。しかし、M字カーブは完全に解消されているわけではないので、今後も取組や支援の充実を図っていく必要があります。